

平成29・30年度人権教育研究指定校の実践

静岡県立新居高等学校

●研究テーマ

校訓「勉学」「礼儀」「積善」を柱とした人権尊重の学校づくり

～生徒・教職員一人ひとりに人権尊重の意識が育まれ温もりのある学校を実現するために～

●3つの柱と10の具体的方策

1の柱「勉学」

授業のユニバーサルデザイン化
社会人としての納期厳守の習慣化
家庭学習の大切さの理解と実践
外国人等学習支援が必要な生徒への指導法

2の柱「礼儀」

人権尊重を意識した挨拶の励行
高校生らしい品のある身だしなみ（頭髪・服装）の徹底
人権を尊重したルール・マナーの遵守

3の柱「積善」

ノーマライゼーション意識の向上
人権感覚が備わった部活動の活性化
キャリア教育と社会貢献



●主な取組

学校生活での授業や行事などにおける人権教育

- 全学年（交通教室、海岸清掃、部活動）
- 1年生（集団宿泊訓練、保育実習、インターンシップ）
- 2年生（進路ガイダンス、修学旅行）
- 3年生（面接指導、ビジネスマナー、模擬投票）
- その他（車椅子ツインバスケットボール体験）
- 教職員（授業力向上週間、人権教育週間、クラス人権講話、校内職員研修）

●成果

1の柱「勉学」

特に授業のユニバーサルデザイン化においては、授業力向上週間での教科を越えた授業見学を行うなど、分かりやすい授業づくりを共有することができた。さらには外国人生徒や学習支援を必要とする生徒への補習を計画的に行うことができた。

2の柱「礼儀」

人権教育週間では各クラスでの人権講話や配布物による人権への意識付け、朝の校門指導での挨拶奨励、定期的な服装・頭髪検査での身だしなみのチェックなどを意識づけることができた。

3の柱「積善」

海岸清掃やインターンシップなどを通じてボランティア意識が高まった。ノーマライゼーション意識の向上では、福祉コースの授業のほかに、体育コースにて車椅子ツインバスケットボールを体験したことで、生徒の障害者やパラスポーツへの関心も高まった。

●課題

「家庭学習の理解と実践」と「ノーマライゼーション意識の向上」の肯定回答の値が他項目に比べて低かった。家庭学習については、週末課題や長期休業中の課題など検討する必要があると言える。ノーマライゼーション意識については、福祉コース以外の生徒は、身近に障害者や高齢者に接する場面が少ないことが考えられる。学校生活や実生活での経験が生徒の「生きる力の育成」に繋がればと考えている。

来校者の方から、「ほとんどの生徒が挨拶してくれる」「身だしなみがしっかりしている」とお褒めいただくことも多くなった。学校全体に人権尊重の空気が生まれ、温もりのある空間づくりに繋がった。